

農業農村の危機深まる

「食料の安全保障」の第1回は「食料安全保障の確保」をテーマにしました。

その中で世界の食糧需給について途上国を中心とした人口急増、気候変動による異常気象の頻発、戦争の影響などにより不安定化し、食料価格が上昇していると指摘しました。

日本は食料の6割以上を輸入に依存しており、拡大する輸入リスクに対応し安定的な供給を図る事が重要です。

国際的な食料などの商品市場の規模は株式市場や証券市場と比較して極めて小さく、まと

まった金額の買いによって相場が上がりやす



マネーの流入に大きく左右される危険性があります。

他方、日本の農業農村の危機は深まっています。基幹的農業従事者は2000年の240万人から2023年の116万4千人と半減して

10月にも総選挙の可能性

藤野やすふみ予定候補 松川村へ

雨も上がりスーパー前に大勢の皆さんが集まってきました。

地元の女性が「最近の物価高で生活が大変、藤野さんに国会に戻って頑張ってもらいたい」と激励の挨拶を送りました。

藤野さんは2014年の総選挙で初当選し、衆議院議員を2期7年務めました。当選後は原発、消費税増税、中小企業、共謀罪など、論戦の先頭に立つてきま



藤野さんは参加者の応援に応え「なんとんでも頑張ります」と元氣いっぱい次の場所へ出発していきました。

約7割が65才以上となっており、農村では人口減少と高齢化が並行して進行しています。

食料の安定供給、食の安全保障のためにも人口減少の歯止めと基幹産業としての農業の担い手確保の施策・制度が強く求められます。

(浜田見 太田 勲)

繰り返される性犯罪 報告会にご参加を!

沖縄では米兵による性被害が絶えない。この問題は戦後から繰り返されてきて、米兵がいる限り無くならないでしょう。

先日信毎に、沖縄の「行動する女性の会」の代表が「性被害と基地建設等」の状況について報告会を行うと紹介されていた。昭和45年からの性被害の状況を冊子にまとめたことも。『10月6日(日)長野市中央隣館で。午後 開催』

性被害、環境問題、これは沖縄だけの問題ではありません。みんなで考えたいと思います。冊子は米公文書などを手掛かりに追記を重ね70ペーを超えたという。資料だけでもほしい方はこちらを連絡を。

滝沢 村端徳子

文芸欄 今月は俳句です

日に影にひらりひらり夏黄蝶 温暖化季語なる「さんま」失せてゆき 雌の蚊や子孫残すやねらい打ち

幸代 美ちこ 由美

読者の声

自民党が生まれ変わると言うのなら、まず裏金事件の全容を明らかにしなければいけない。脱税者は速やかに納税する。今後、企業団体献金は受けない。

それから統一教会との繋がりが切れたことを国民が納得する内容で説明してもらう。

次は憲法違反。武器輸出はやめて敵基地攻撃能力保有の閣議決定も撤回する。

更に何十年かかるか見当もつかない辺野古の埋め立て工事はきつぱり中止する。そして、原発のことも沢山あります。誰が総裁になっても悪政は続く。政権交代しかありません。

(吾妻町 西田良平)

部内資料

発行責任者 太田 勲 (62-5727)
議員連絡先 薄井 服部 久子 (62-5093)
編集責任者 山本 山本 久子 (62-4357)
(61-1066)

日本共産党
池田ファンクラブ・ニュース
あした天気にな〜れ

275号
2024年9月号

赤旗日曜版「裏金報道」 JCCJ大賞を受賞

日本ジャーナリスト会議(JCCJ)は、優れたジャーナリズム活動を表彰するJCCJ大賞に「しんぶん赤旗」日曜版の「自民党派閥の政治資金パーティー収入不記載のスクープと一連の裏金報道」が受賞した、と発表しました。

自民党の「大政治犯罪」を明らかにし、「2023年から24年にかけての日本の政治を揺り動かす」、裏金問題が最大の政治的焦点となったのは『日曜版』の報道なくしてはできなかつた」のが選考理由です。

日曜版の大賞受賞は安倍晋三政権の権力私物化を告発した「桜を見る会」スクープ以来4年ぶりです。



授章式(しんぶん赤旗)

裏金問題の端緒を切り開いたきっかけは、2020年11月の「新聞赤旗日曜版」の特報と、それを受けた上脇博之神戸学院大学教授による東京地検への刑事告発でした。これがやがて裏金事件として岸田文雄首相の退陣までつながっていったのです。

当初、日曜版のスクープを後追いしなかつた大手メディアは、東京地検特捜部が捜査に乗りだしてから、やっと動き出しました。

この報道は自民党ぐるみの組織犯罪を浮き彫りにしました。同党が公表せざるをえなかつた「裏金議員」は衆参計82人。海外メディアでも話題になりました。なぜ大手メディアではなく政党機関紙の「赤旗」が追求できたのでしょうか。

政治資金収支報告書という、誰もが閲覧可能な情報を出発点に多くの団体の報告書を一枚ずつ調べ、派閥側の収入とつきあわせて不記載を見つけてるのは「気の遠くなる地道な作業」です。

日曜版編集部記者の強い追及の

意思と粘り強い努力の結果です。

同時に、政党助成金もパーティー券購入を含む企業・団体献金も一切受け取らず、党費と「赤旗」購読料、国民の寄付で党を運営している日本共産党の機関紙だからこそ、遠慮なく追及できたのではないのでしょうか。

9月15日号日曜版では、ジャーナリスト田原総一郎さん、法政大学名誉教授田中優子さん、弁護士の角田由希子さんなどが、受賞を評価する励ましの文章を寄せています。

|| お願い ||

「赤旗日曜版」が財政難で「発行の危機」に置かれています。ファンクラブ読者の皆様に「赤旗日曜版」を是非お読みいただけたらと願ひ、ご検討をお願い致します。

新聞は毎週日曜日発行で、読者宅までお届けします。代金は月額990円で、月末に集金に伺います。見本紙もありますので、ご検討をいただき、役員か議員まで連絡いただければ幸いです。よろしくお願ひいたします。(日本共産党池田ファンクラブ)

コラム 有明

「敬老の日」に孫からの電話やメール、手紙は最高にうれしいものだ。人工知能研究者で長野県出身の黒川伊保子氏はラジオ番組でこう述べていた▼「母親が子どもを怒るのは、早く自立してほしい。そうしないと次の子どもを宿す準備ができないではないか、という子孫を多く残すための母親の反応で自然のこと」とのことだった▼うーん納得した

そして続きをこう述べた。「おばあちゃんがカッカッと怒鳴らないのは、子孫を増やす必要がない身体だから・・・」と。また納得した。怒る母親をみて自分もそうだったかなと振り返った▼子どもの多かつた時代は同居している祖父母のかかわりが、とても大きかつた。しかし、今は核家族が進み生活様式も変わってきている。理想かもしれないが子育てに安心の環境は、子どもにも大人にも自由で余裕のある時間ではないか▼幸福度1位のフィンランドのように8時間労働で賃金が保障されたら、きつと子どもは増えるにちがいない。